

たじま茜 短編集

「おはなしの小箱」



「幸福な猫」

白い猫は考える

あの黒いネコは

なんてみすばらしいのだろう

やせっぽっちで汚くて

同じ猫とは思えない

寒さにこごえて「ミ」あさり

愛されることなど知らないネコよ

私はお前がかわいそう

私はお前がかわいそう

ああ

どうか神様願わくは

あの不幸なネコに幸運を…

私のような幸せを…



黒い猫は考える

あの白いネコは

なんてみにくい姿だろう

でっぷりと太っただらけた手足

同じ猫とは思えない

子孫も残せずお飾り品

本当の自由を知らないネコよ

俺はお前がかわいそう

俺はお前がかわいそう

ああ

どうか神様願わくは

あの不幸なヤツに幸運を…

自分の不幸に気付きもしない

あの愚かなネコに幸せを…



「あめ玉売り」

あめ玉売りがあめを売る
丸くて甘くていいかおり
ひとつぶ口にふくんでごらん
みんなに幸せおとずれる

あめ玉売りは優しい人
お金はけっして受けとらない
ほしがる人に好きさだけ
甘いあめ玉くばるだけ

あめ玉売りこそ 天使様
あめ玉売りこそ 慈愛の主

やがてぼくらの口の中
よくばりすぎた口の中

甘いかおりが支配する

虫歯だらけのぼくたちと
変わらぬ笑顔のあめ玉売り



Do you want a Candy?



あめ玉売りは 悪魔の使い
あめ玉売りはこの世の悪

怒りの嵐がすぎると
残る答えはひとつだけ

あめ玉売りはあめ玉売り
善でなければ悪でもない

ただただ あめ玉くばるだけ
望んだものをくれただけ

「オカメインコが笑うわけ」

オカメインコは笑ってる
おいしいご飯を食べたから

オカメインコは笑ってる
髪型キリリツときまるから

オカメインコは笑ってる
大すきなあの娘にちゅーされて
ほったホコホコまっかつか

オカメインコは笑ってる
空が青いと嬉しくて
雨がふると楽しくて
きれいな星が大すきで
丸い世界が愛しくて

オカメインコは知っている
何が大事か知っている

だから毎日 幸せそうに
オカメインコは笑ってる



「希望のうた」

あきらめよう あきらめよう
叶わぬ夢など あきらめよう

サッカー選手に名女優
宇宙飛行士 大統領

危険な賭けごと求めずに
地道な幸せ手にいれよう

あきらめよう あきらめよう
届かぬ恋など あきらめよう

いつか必ず現れる
白馬に乗った王子さま

己の醜態さらしてまで
片恋つらぬくことはない

走ったところでゴールは見えず
利口なヤツなら走らない

そうして並べた言い訳で
あきらめられると思ったかい？



うまくだませたその先が
楽しいとも思ったかい？

やりたいことから逃げ出すな
大人のふりして捨て行くな

さあさみなさん
あきらめよう

あきらめることを
あきらめよう

人生最期のその時に
どうか後悔なきように

さあさみなさん
前を向き

あきらめることを
あきらめよう！

「夢喰いバクの悩み事」

最近 いつでもハラペコだ
オレの好みの夢がない

誰もかれもが大人ぶり
バカな夢など見もしない

オレはグルメだふざけるな
妥協まみれの夢なんて
ぬるくて喰えたものじゃない

オラオラ

ケツのあお〜いクソガキども
夢を探せよ夢をみる

夢を追いかけふんじばれ
そいつをでっかく育てたら
オレがペロリと喰ってやろう

夢は消え去り 目標に…
やがて現実となって叶うだろう

そんな未来を見たくはないか？
そんな未来を見たいだろ？

オレは短気だハラペコだ
グズグズしてると見限るぞ

オラオラ

体のでか〜いクソガキども
他人事みたいな顔すんな
夢を捨てるな忘れるな
大事に抱えて磨いてみるよ

そいつがきれいに光ったら
オレがペロリと喰ってやろう

しっかりしろよ

負けるなよ

見えない未来に失望するな
見えない未来に希望もて

オレは短気だハラペコだ
だ〜どグルメだ偏食だ

まことの夢が喰えるのならば
ちよつと〜くらいは待ってやる

クソガキどもの可能性
ちよつと〜くらいは信じてやるよ
百年くらいは待ってやる



「立派な紳士」

寄付をしない 寄付をしろ
声高々に紳士は言う

寄付をしない 寄付をしろ
めくまれない子ども達には愛の手を

お前は どうして寄付をしない？

なんと非情な人間か

お前の愚かな行いは

全とお前に還るであろう

寄付をしない 寄付をしろ

声高々に紳士は言う

太った体を激しくゆらし

毛皮のコートを身にまとい

宝石だらけの両手をかざし

声高々に紳士は叫ぶ

「めくまれない子ども達に愛の手を！」



「銀色しっぽのさぎ師のきつね」

おいらは一流さぎ師のきつね
銀色しっぽのさぎぎつね

おいらにかかれば 誰しも愚者さ
だませぬ者などこの世にいない

口も八丁 手も八丁
2枚の舌は幸せ語り
利口な瞳は笑って隠す

欲におぼれた人間なんぞ
コロリとだまされ夢ごち

おいらは一流さぎ師のきつね
銀色しっぽのさぎぎつね

おいらにかかれば 誰しも愚者さ
盗れぬ物など何もない

お金も地位も愛だつて
あふれんばかりに手に入る

心のやさしい人間なんぞ
あつというまに夢の中

でもね



ホントはとてもむなしいよ
ホントはとてもさみしいよ
ホントは誰かに愛されたくて
ホントは誰かを信じてみたい

そおんな気持ちはゴミの中
痛む胸など持ってはいない

なぜならおいらはだましのプロ

自分ごときをだませぬヤツが
他人をだませる訳がない

おいらは超一流の
さぎ師のきつね

銀色しっぽのさぎぎつね

臆病者の子ぎつねなんぞ
おいらの中にはいないのさ

「赤いビー玉」

赤いビー玉をたくさん持っている人に出会いました。

彼女はとてもめぐまれている人でした。

彼女はとても愛されている人でした。

彼女の心はとても美しく

傷跡はひとつもありませんでした。

彼女は赤いビー玉を持たないボク達に

優しく微笑み言いました。

「このビー玉をあげましょうね。

あなた達はとても不幸な子どもだから。」

彼女はとても優しい人でした。

彼女はとても綺麗な人でした。

そして彼女は

とてもとても

とてもとても

傲慢な人でもありませんでした。



「子ウサギと子ガメ」

あるところに

ウサギとカメがおりました。

ふたりはどちらが速く走れるか
競争することにしました。

ウサギはいっしょうけんめい走り
とても早くゴールにつきました。

見ていた大人たちは言いました。

「大人げない」

次のレースで

ウサギはいっしょうけんめい
たぬき寝入りをしました。

今度はカメが勝ちました。

見ていた大人たちは言いました。

「やる気を出せ！」

ウサギはなんだか面倒くさくなったので
そのままぐうぐう寝てやりました。



「蛇足（だそく）」

だそくだそくと言いますが
へびのあんよのどこが悪い？

余計なものとは言いますが
私は私のでんよが好き

だって

可愛い靴がはけるもの
タップダンスも踊れるわ
スキップだってできるもの
私は私のでんよが好き

だそくだそくと言いますが
それを決めるは私だけ

仲間とちよつとは違うけど
無用の長物なんかじゃない

私は私に誇りをもつわ
私は私のでんよが好き



「言葉の葉」

ことの葉 ことの葉 ことばの葉っぱ
風に吹かれてサラサラ落ちる
思い切ってつかんでごらん

言いたい気持ちがあるのなら
言えない気持ちがあるのなら

ことの葉 ことの葉 ことばの葉っぱ
誰のもとにもサラサラ落ちる
足元じっくり探してごらん

言いたい言葉は落ちている
言えない言葉は落ちている

ことの葉 ことの葉 ことばの葉っぱ
風に吹かれてサラサラ落ちる
ほんの少しの勇気を出して
ことの葉そっと渡してごらん

「愛の告白」「日頃の感謝」
「昨日の謝罪」に「過大な夢」

伝えたい気持ちがあるのなら
伝えたい人がいるのなら…



「ナマケモノの喫茶店」

町のはずれの喫茶店

ナマケモノのマスターが

にこにこ笑って待っている

ミルクパンでポコポコ作る

甘いミルクはいかがです？

焼きたてマフィンもありますよ

お野菜いっぱいサンドイッチは

ランチになるまで待ってね

鼻歌うたっているですよ

うたた寝してもいいですよ

ゆっくりゆっくり

のんびりしましょう

心の休憩 なまけもの

珈琲なんかいいですよ

だってアレは苦いでしょう？

冷たい飲み物ないですよ

お腹がコロコロしちゃうでしょう？

急ぐなんて言わないで

一緒にのんびりしましょうよ



長い人生ちょっとくらい

怠けたっていいじゃない

ゆっくりゆっくり

のんびりしましょう

心の栄養 なまけもの

悲しくなったらいらっしゃい

苦しくなったらいらっしゃい

何にもなくても来ていいよ

みなさんけっこう頑丈だけど

すぐにコロンとこけるでしょう？

すり傷きり傷放置はダメよ

心のお薬 なまけもの

町のはずれの喫茶店

ナマケモノのマスターは

今日も笑って待っている

ゆっくりゆっくり

のんびりしましょう

心の休憩 なまけもの

「仲よしこよし」

小さい犬はワンワンきゃんきゃん
大きい犬にうったえる

きみはとっても大きいのに
ボクとしてにぶいから
ぼくはとっても心配なんだ
ぼくの後ろに隠れてて
ぼくがきみを守ってあげる
だいじなだいじなお友達

大きい犬はクンクンすんすん
小さい犬には言えない気持ち
君はとっても小さいのに
負けん気だけは強くて
そのうえ無敵な勇者のつもり
僕はとってもとても心配だ
いつでも見える所にいてね
僕が君を守るから

大事な大事なお友達
小さな小さなお友達

